

# アジャイル型政策形成・評価の在り方に関するワーキンググループ提言 (令和4年5月31日) への対応状況

## 【提言の趣旨】

- ・環境の変化が早く、社会課題が複雑化・困難化して先を見通しにくい状況下で、社会課題に適時的確に対応できる、より機動的で柔軟な行政への転換を目指す。
- ・PDCAサイクルを回し、環境変化に対応しながら政策を改善する、ダイナミック（動的）なEBPMを行うほか、経験のない新たな課題については、考え得る最善の政策でチャレンジし、トライ＆エラーで精度を向上する。

## 主な提言事項

## 対応状況

### （１）制度改正・運用改善

- 行政事業レビューの意思決定プロセスへの活用
  - ✓ 意思決定過程におけるEBPM的観点導入のため、行政事業レビューシートの見直し、予算編成プロセス（財政当局への説明等）で活用
- 固定的・画一的な評価プロセスの負担の軽減による、政策立案・実施に投入するリソースの確保

- ・EBPM的要素を充実させた試行版レビューシートを作成（128事業（シート）について令和4年9月公表）
- ・秋の年次公開検証において、行政事業レビューをEBPMの実践につなげていく手法について議論（同年11月）
- ・これらを踏まえ、今後のレビューの見直しの方向性をとりまとめ（詳細は資料2）
  - 財務省や総務省を始めとした各府省と連携し、政策立案・改善や予算編成プロセスでの活用を前提に、横断的に見直す
  - 各府省と行革事務局の明確な役割分担の下、事業の多様性を踏まえつつ、計画的に取り組む
  - シートの見直しやシステム化によって、職員の作業負担を軽減し、政策立案・改善等の実質的な議論に集中

### （２）基盤の整備

- 機動的で柔軟な政策形成・評価を実践しようとする各府省庁に対する支援の充実

- ・提言に沿って、「EBPM補佐官派遣制度」、「伴走型支援ネットワーク」、「政策設計ラボ」の支援の仕組みの運用開始（令和4年7月）、EBPMガイドブックを作成・公表（同年11月）、「アクティビティの特徴に応じた政策効果の測定のポイント（試案）」を作成・公表（同年11月）
- ・優れたEBPMの取組を行った組織・職員を表彰する「政策形成アワード」の開催について検討中